

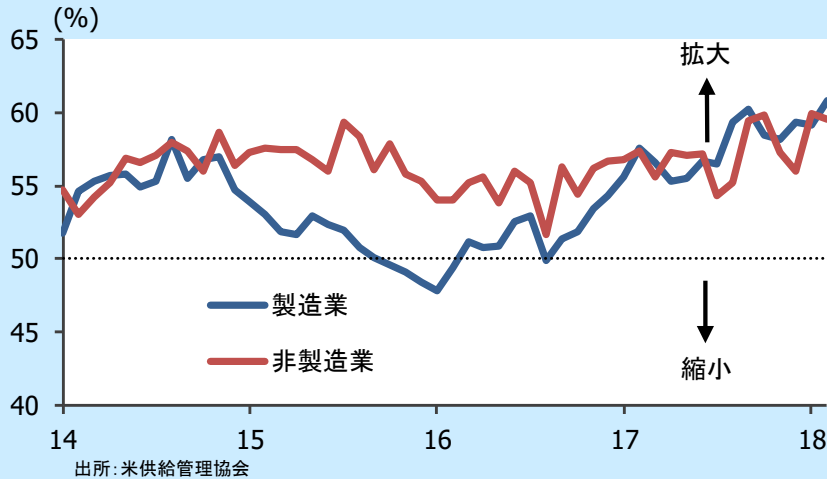
米国：ISM景況指数（2018年2月）

—製造業は04年5月以来の高水準を記録—

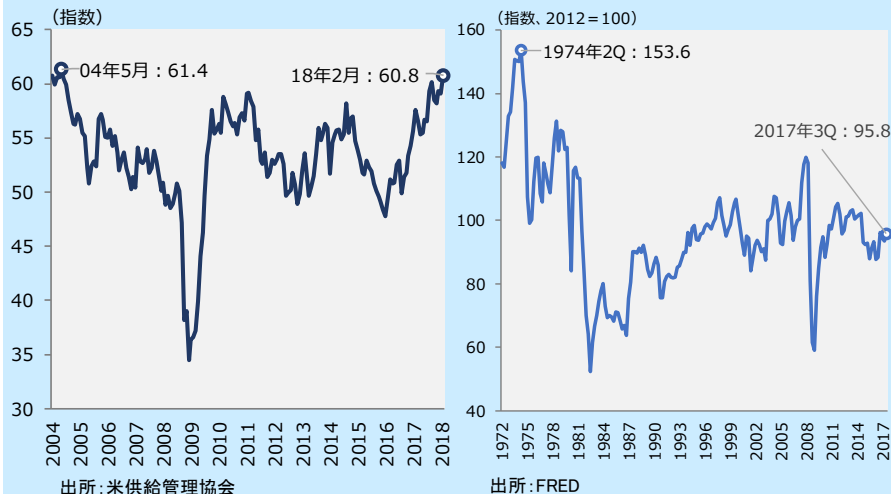
MRI Daily Economic Points

March 6, 2018

図表1 総合指数



図表2 ISM製造業景況指数（長期） 図表3 米国における鉄鋼生産量



評価ポイント

今回の結果

- 2月のISM製造業景況指数（総合、3/1公表）は、60.8と前月（59.1）から上昇した。04年5月以来の高水準となった（図表2）。
- 項目別にみると、入荷遅延（61.1）と雇用（59.7）、在庫（56.7）が上昇した。一方で、新規受注（64.2）や生産（62.0）は、2ヶ月連続の減少となったが、極めて良好な景況感を示す60以上を維持した。業種別では、18業種のうち15業種が50を上回り、幅広い業種で活動が拡大した。
- 2月のISM非製造業景況指数（総合、3/5公表）は、59.5と前月（59.9）から小幅に低下したが、依然として高水準を維持した。指数の公表開始以来の最高水準を記録した前月の大幅上昇の反動減とみられている。
- 指数を構成する4項目のうち、新規受注（64.8）やビジネス活動（62.8）が上昇。一方、雇用（55.0）は大きく低下した。こちらも反動減とみられている。業種別では、16業種が50を上回り、幅広い業種で活動拡大が継続した。

基調判断と今後の流れ

- ①堅調な内需や、②世界経済の持ち直し、③トランプ政権による減税への期待などから、企業は良好な景況感を維持している。先行きも、①内需の堅調さや、②法人税減税に支えられ、企業活動は底堅く推移すると予想。
- 下振れ要因は、①貿易政策において保護主義的な動きが加速した場合、輸出入物価の上昇などを通じて、企業活動を抑制しかねない。特に、トランプ大統領が1日に公表した、鉄鋼の輸入関税を25%へ引き上げる計画は、米国の製造業へ悪影響が及ぶ。米国における鉄鋼の生産量は、1970年代以降、減少傾向にあり（図表3）、関税引き上げによる国産鉄鋼への需要のシフトを賄いきれないと思われる。
- また、②現在、上昇傾向にある長期金利が今後も上昇を続けた場合や、③レパトリ減税の実施に伴い、海外留保利益が米国内に大量に還流した場合は、ドル高を通じて輸出が押し下げられる恐れがある。